

賃貸マンションを併設した新本社ビルを竣工

太田紙販売

太田紙販売㈱（東京都台東区、瀧澤寛美社長）は、二月二十九日に新本社ビルを竣工した。築六〇年を迎えた旧本社ビルの耐震化を行うと同時に、コインパーキングから賃貸マンション経営に不動産事業を転換した。同社の創業当初（一九二二年）から縁のあった安田不動産㈱（千代田区、安田守社長）との共同事業である。

太田紙販売創業者の太田弥五郎氏は、旧安田財閥の中核であった安田保善社にも関係していた。今回の建

設プロジェクトは、二〇一八年八月に安田不動産に本社建替えの相談をした事に始まり、まさに原点回帰ともいえる内容となった。

新本社ビルは、JR総武線・浅草橋駅より徒歩三分、都営地下鉄浅草線・浅草橋駅より徒歩二分と、交通至便な立地にある。一階が会社事務所（太田ビル）で、二階から三階は、賃貸マンション「レフィールオーブ浅草橋」全四九戸となる。「レフィールオーブ」は、安田不動産の賃貸マンション



瀧澤寛美社長（左）と水谷朋宏取締役

ンのブランド名であり、LDKから2LDKの二タイプを用意している。三方が道路に面しており、北面には、四本の柱のデザインがアレンジされ、一本が二五分、四本で計一〇〇年分と、向こう百年を見据えたデザインを意図している。また、東面のマンション入口には、木製のデザインパネルを採用。紙の原料である木材を使用することで、製紙会社のグループ企業とゆかりがあることを表現している。建設資材のコンクリート混和剤には、日本製紙グループの㈱フローリック（豊島区、横町彰一社長）製品を、また日本製の壁紙原紙、石膏ボード原紙使用製品を採用している。

新本社ビル



入居者向けには、一階共用部だけでなく、各階にも各戸専用の宅配ボックスを設置。ハンズフリーキーで一階エントランスが操作不要で通れるほか、各戸玄関ドアもボタンでの施開錠が可能。エアコンも各戸全室に設置した。また、遠隔操作可能なインターホンシステムを採用し、居住者の利便性に配慮した物件としている。賃貸管理は、東急住宅リース㈱が担当する。

太田紙販売は板紙の卸売を本業とし、脱プラ・減プラの紙化製品で「紙ででき

る事は紙で。」を追求してきた。二三年末からは、日本製紙のCNF新素材・セレンピア配合の「瀧澤ハイドクリーム」「瀧澤化粧水」の開発により化粧品販売も展開している。今回の新ビル完成により、賃貸マンション経営にも参画する。

同社は三月十一日（月）より新事務所での営業開始を予定している。来客者に記念品（紙製ボールペン、紙コースター、紙コップクロ、紙製メモ帳、瀧澤化粧品等）のプレゼントを用意している。

新本社ビルの住所は〒11-0052東京都台東区柳橋一三二-16太田ビル一階（電話）03・3851・2131（FAX）03・3851・6245